Internet Streaming Server

7 オプションの増設

ストリーミングサーバに取り付けられるオプションの取り付け方法および注意事項について記載しています。

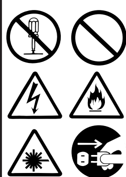
注意事項

オプションを増設する際は次の点について注意してください。

安全上の注意

安全に正しくオプションの取り付け・取り外しをするために次の注意事項を必ず守ってください。

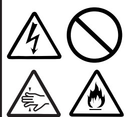
⚠警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- CD-ROMドライブの内部をのぞかない
- リチウムバッテリやニッカドバッテリ、ニッケル水素バッテリを取り外さない
- プラグを差し込んだまま取り扱わない

⚠注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で持ち上げない
- 中途半端に取り付けない
- カバーを外したまま取り付けない
- 指を挟まない
- 高温注意

一般的な注意

- オプションの取り付け/取り外しはユーザー個人でも行えますが、この場合の装置および部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。本装置について詳しく、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に取り付け/取り外しを行わせるようお勧めします。
- オプションおよびケーブルは弊社が指定する部品を使用してください。指定以外の部品を取り付けた結果起きた装置の誤動作または故障・破損についての修理は有料となります。
- 装置内部に部品やネジを置き忘れていないことを確認してください。特にネジなどの導電性の部品を置き忘れていないことを確認してください。導電性の部品がマザーボード上やケーブル端子部分に置かれたまま電源をONにすると誤動作の原因となります。
- 装置内部の冷却効果について確認してください。内部に配線したケーブルが冷却用の穴をふさいでいないことを確認してください。冷却効果を失うと装置内部の温度の上昇により誤動作を引き起こします。
- ハードウェア構成を変更した場合も、必ずシステムをアップデートしてください（53ページを参照）。
- オプションの取り付け・取り外し後に「診断プログラム」を起動して構成情報を[最新の情報に更新]してください（198ページに示す手順を参考に操作してください）。

静電気対策について

ストリーミングサーバ内部の部品は静電気に弱い電子部品で構成されています。取り付け・取り外しの際は静電気による製品の故障に十分注意してください。

- **リストストラップ(アームバンドや静電気防止手袋など)の着用**

  リスト接地ストラップを手首に巻き付けてください。手に入らない場合は部品を触る前に筐体の塗装されていない金属表面に触れて身体に蓄積された静電気を放電します。
  また、作業中は定期的に金属表面に触れて静電気を放電するようにしてください。

- **作業場所の確認**

  - 静電気防止処理が施された床またはコンクリートの上で作業を行います。
  - カーペットなど静電気の発生しやすい場所で作業を行う場合は、静電気防止処理を行った上で作業を行ってください。

- **作業台の使用**

  静電気防止マットの上に本装置を置き、その上で作業を行ってください。

- **着衣**

  - ウールや化学繊維でできた服を身につけて作業を行わないでください。
  - 静電気防止靴を履いて作業を行ってください。
  - 取り付け前に貴金属(指輪や腕輪、時計など)を外してください。

- **部品の取り扱い**

  - 取り付ける部品は本装置に組み込むまで静電気防止用の袋に入れておいてください。
  - 各部品の縁の部分を持ち、端子や実装部品に触れないでください。
  - 部品を保管・運搬する場合は、静電気防止用の袋などに入れてください。

取り付け/取り外しの準備

部品の取り付け/取り外しの作業をする前に準備をします。

装置の確認

複数のストリーミングサーバを1つのラックに搭載している場合は、オプションの増設をしようとしている装置がどれであるかを見分けるために装置の前面および背面にある「IDランプ」で確認します。

前面にあるIDスイッチを押すとIDランプが点灯します。もう一度押すとランプは消灯します。
ラック背面からの保守は、暗く、狭い中での作業となり、正常に動作しているストリーミングサーバの電源やインタフェースケーブルを取り外したりするおそれがあります。IDスイッチを使ってオプションの増設をするストリーミングサーバを確認してから作業を始めてください。

電源のOFF

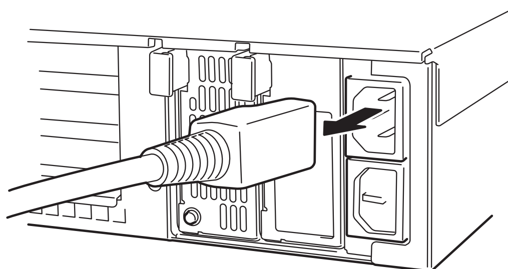
装置内部の部品に触れる場合は、必ず電源をOFFにして、電源コードのプラグをコンセントから取り外さなければいけません。
ただし、ディスクアレイを構成している内蔵ハードディスクドライブの取り外しはホットスワップ(電源がONの状態)で作業することができます。

1. OSのシャットダウン処理を行う。

2. POWER/SLEEPスイッチを押してストリーミングサーバの電源をOFF(POWER/SLEEPランプ消灯)にする。

3. ストリーミングサーバに接続しているすべてのケーブルおよび電源コードを取り外す。

   以上で完了です。この後の部品を取り外すためにプラスドライバを用意してください。



オプションの増設

取り付け/取り外しの手順

次の手順に従って部品の取り付け／取り外しをします。

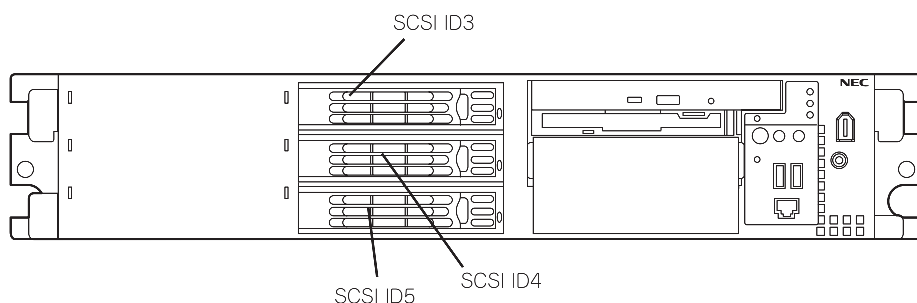
ハードディスクドライブ

ストリーミングサーバの前面にあるハードディスクドライブベイには、SCA2インタフェース(Ultra160 SCSI)を持つハードディスクドライブを取り付けるスロットを3つ用意しています。



- **弊社で指定していないハードディスクドライブを使用しないでください。サードパーティのハードディスクドライブなどを取り付けると、ハードディスクドライブだけでなくストリーミングサーバ本体が故障するおそれがあります。次に示すモデルをお買い求めください(2004年2月現在)。**
  - N8150-161(18.1GB、10,000rpm、Ultra320)
  - N8150-162(36.3GB、10,000rpm、Ultra320)
  - N8150-163(73.2GB、10,000rpm、Ultra320)
  - N8150-171(146GB、10,000rpm、Ultra320)
  - N8150-164(18.1GB、15,000rpm、Ultra320)
  - N8150-165(36.3GB、15,000rpm、Ultra320)
  - N8150-172(73.2GB、15,000rpm、Ultra320)
- **ディスクアレイを構築する際は、RAIDレベルをRAID0、またはRAID1、RAID5、RAID0+1のいずれかに設定してください。**

スロットには約25.4mm(1インチ)厚のハードディスクドライブを取り付けることができます。SCSI IDは次のように固定で設定されています。
ハードディスクドライブベイの空きスロットにはダミートレーが入っています。ダミートレーは装置内部の冷却効果を高めるためのものです。ハードディスクドライブを搭載していないスロットにはダミートレーを取り付けてください。





出荷形態によっては、空きスロットにはダミートレーではなくダミースポンジが取り付けられている場合があります。この場合も冷却効果を高めるために空きスロットには必ずダミースポンジを取り付けてください。

購入時のディスク構成について

ハードディスクドライブのコネクタは装置内部にあるSCSIバックプレーン(BP)に接続されます。SCSI BPから、マザーボード上のSCSIコネクタ、またはライザーカードに搭載されたディスクアレイコントローラに接続することで内蔵ハードディスクドライブは、通常のSCSIハードディスクドライブとして動作するか、RAIDドライブ(アレイディスク)として動作します。

本装置のSCSI BPのコネクタは出荷時の構成でマザーボード上のSCSIコネクタに接続されており、ハードディスクドライブベイに標準搭載されたハードディスクドライブはSCSIハードディスクドライブとして動作します。

ハードディスクドライブを増設してハードディスクドライブベイをディスクアレイ構成で使用する場合は、別売のディスクアレイコントローラを増設し、マザーボード上のコネクタからディスクアレイコントローラのコネクタにケーブルをつなぎかえます。



ハードディスクドライブベイをディスクアレイ構成で使用する場合は標準で搭載されているハードディスクドライブからOSを起動することはできません。OSをインストールしなおしてください。

取り付け

次に示す手順でハードディスクドライブを取り付けます。その他のスロットへの取り付けも同様の手順で行えます。

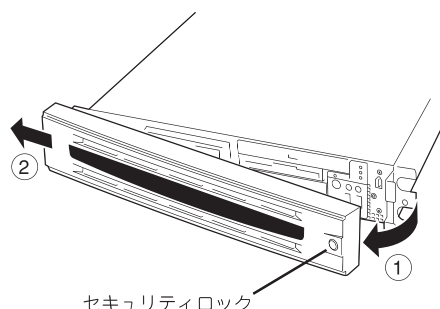


ハードディスクドライブは、フロントベゼルを取り外すだけで取り付け/取り外しを行うことができます。



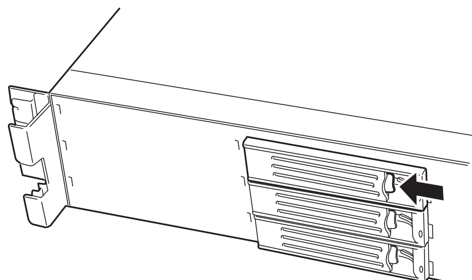
ディスクアレイを構成している場合は、同じパックを構成するハードディスクドライブの回転数や容量などの仕様が同じものを使用してください。

1. 207ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。



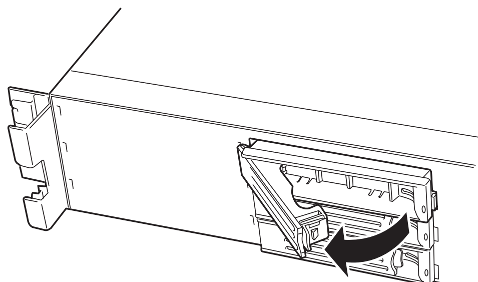
3. ハードディスクドライブを取り付けるスロットを確認する。

スロットはストリーミングサーバに標準で3つあります。SCSI ID番号の小さい順に取り付けてください。SCSI IDはスロットの位置で決まっています。



4. ダミートレーのレバーを押してロックを解除する。

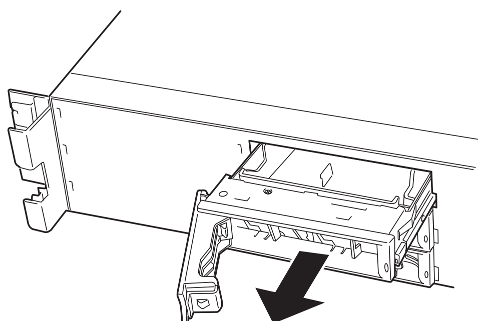
5. ダミートレーのハンドルを引っ張る。



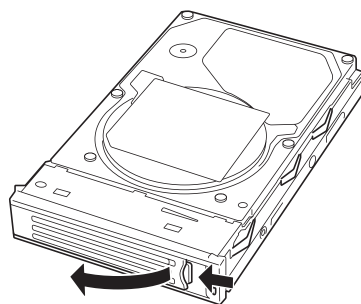
6. ダミートレーを取り外す。



ダミートレーは大切に保管しておいてください。



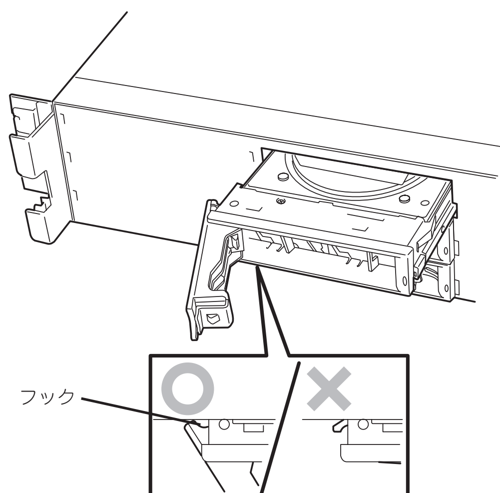
7. ハードディスクドライブのロックを解除する。



8. 増設するハードディスクドライブ(トレー付き)とハンドルをしっかりと持ってスロットへ挿入する。

重要

- **ハンドルのフックがフレームに当たるまで押し込んでください。**
- **ハードディスクドライブは両手でしっかりとていねいに持ってください。**



9. ハンドルをゆっくりと閉じる。

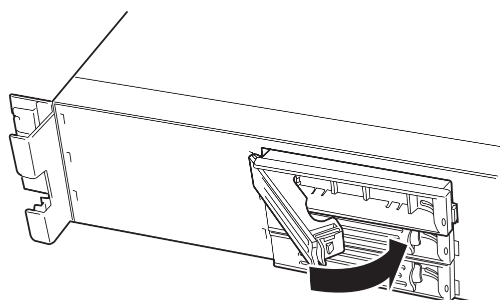
「カチッ」と音がしてロックされます。

重要

ハンドルとトレーに指を挟まないように注意してください。

チェック

押し込むときにハンドルのフックがフレームに引っかかっていることを確認してください。



10. <ディスクアレイを構築している場合>

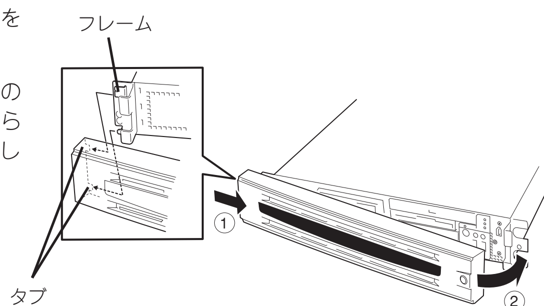
ストリーミングサーバの電源をONにして、ディスクアレイコンフィグレーションユーティリティを起動してディスクアレイを構築する。
ディスクアレイコンフィグレーションユーティリティは、搭載しているディスクアレイコントローラのタイプによって異なります。
また、すでにディスクアレイを構築している装置にハードディスクドライブを追加した場合は、Windowsベースの保守・管理アプリケーションを使ってセットアップすることもできます。詳しい説明は、ディスクアレイコントローラボードに添付の説明書、または「EXPRESSBUILDER」CD-ROMにあるオンラインドキュメントを参照してください。

重要

RAID1で動作しているストリーミングサーバにExpand Array機能を使って、ハードディスクドライブを追加すると、自動的にRAID10に切り替わります(ただし、ユーティリティなどを使って直接RAID10に設定することはできません)。

11. 手順2で取り外したフロントベゼルを取り付ける。

フロントベゼル左側のタブが本体のフレームに引っかかるようにしてから取り付けてセキュリティキーでロックします。

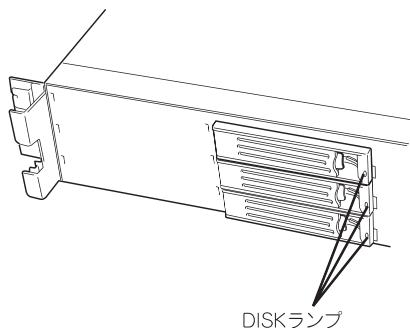


取り外し

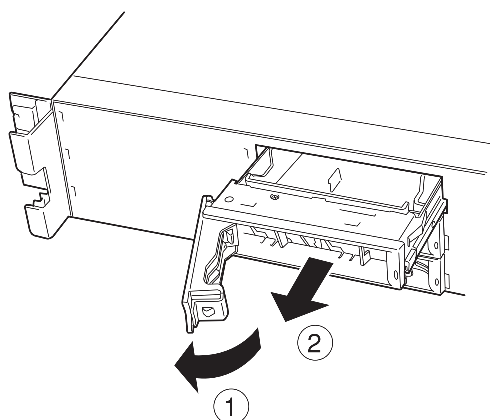
次の手順でハードディスクドライブを取り外します。


チェック

ハードディスクドライブが故障したためにディスクを取り外す場合は、ハードディスクドライブのDISKランプがアンバー色に点灯しているスロットをあらかじめ確認してください。



1. 207ページを参照して準備をする。
2. セキュリティキーでフロントベゼルのロックを解除して、フロントベゼルを取り外す。
3. レバーを押してロックを解除し、ハンドルを倒す。
4. ハンドルとハードディスクドライブをしっかりと持って手前に引き出す。
5. ハードディスクドライブを取り外したままストリーミングサーバを使用する場合は、空いているスロットにダミートレーを取り付ける。
6. 手順2で取り外したフロントベゼルを取り付ける。



ディスクアレイ構成の場合、故障したハードディスクドライブの交換後、交換した新しいディスクに交換前までの情報を記録することにより、故障を起こす以前の状態に戻すことのできるオートリビルド機能を使用することができます。

オートリビルド機能は、RAID1、またはRAID5、RAID0+1に設定されているディスクアレイで有効です。

オートリビルドは、故障したハードディスクドライブをホットスワップ(電源ONの状態でのディスクの交換)するだけで自動的に行われます。オートリビルドを行っている間、ハードディスクドライブにあるDISKランプが緑色とアンバー色に交互に点灯してオートリビルドを行っていることを示します。



- **オートリビルドに失敗すると、ハードディスクドライブにあるDISKランプがアンバー色に点灯します。もう一度ディスクの取り外し/取り付けを行ってオートリビルドを実行してください。**
- **ディスクアレイ監視ユーティリティをインストールしている場合は次のような表示や動作をすることがありますが、オートリビルド終了後、オートリビルドを行ったハードディスクドライブのDISKランプがアンバー色に点灯していなければ、オートリビルドは正常に行われています。**

  － オートリビルド中に「Rebuild was canceled」と画面に表示される。
  － オートリビルドをいったん終了して再開しているような動作をする。

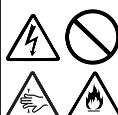
オートリビルドを行うときは、次の注意を守ってください。

- ハードディスクドライブが故障してから、オートリビルドを終了するまで装置の電源をOFFにしないでください。
- ハードディスクドライブの取り外し/取り付けは、90秒以上の間隔をあけて行ってください。
- 他にリビルド中のハードディスクドライブがある場合は、ディスクの交換を行わないでください(リビルド中はハードディスクドライブにあるDISKランプが緑色とアンバー色に交互に点灯しています)。

ストリーミングサーバ　- ラックからの引き出し -

ハードディスクドライブと電源ユニットを除く部品の取り付け／取り外しの作業はストリーミングサーバをラックから引き出した状態で行います。

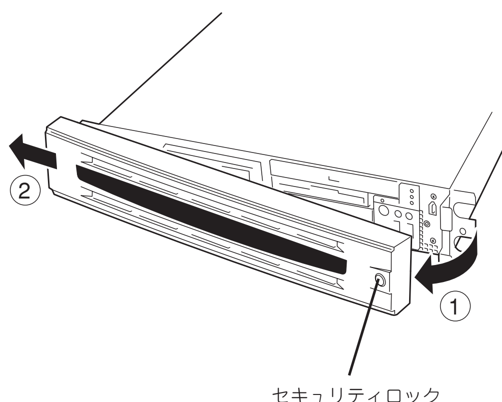
⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。

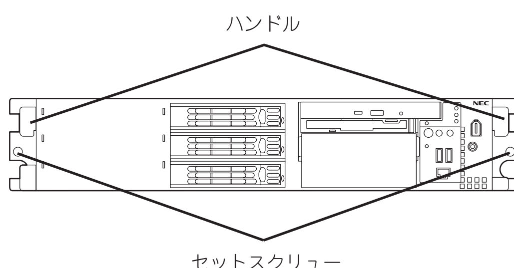
- **カバーを外したまま取り付けない**
- **指を挟まない**
- **高温注意**
- **ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない**
- **複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない**

1. 207ページを参照して準備をする。
2. セキュリティロックを解除してフロントベゼルを取り外す。



3. 前面のセットスクリュー2本をゆるめる。
4. ハンドルを持ってゆっくりと静かにラックから引き出す。

   「カチッ」と音がしてラッチされます。



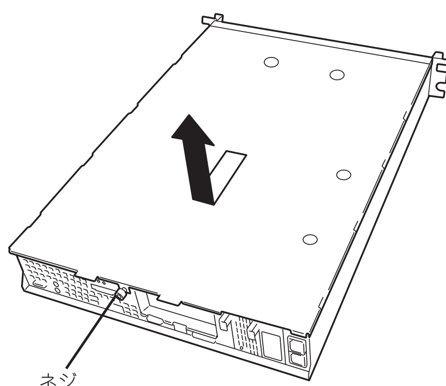
ラックへ戻す場合は、本体側面のレールにあるリリースレバーを押して、ラッチされた状態を解除してください。このときに指を挟んだりしないよう十分に注意してください。

トップカバー

内蔵デバイスの取り付け/取り外しや内部のケーブル接続を変更するときはトップカバーを取り外します。

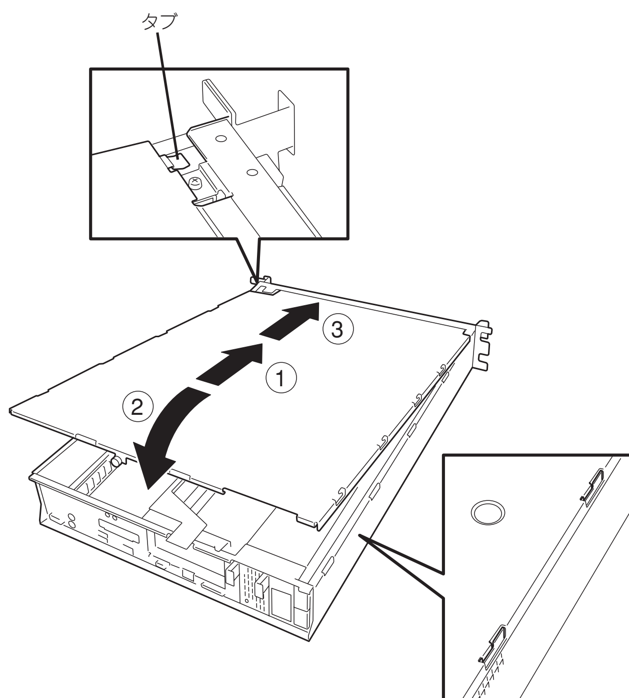
取り外し

1. 207ページを参照して準備をする。
2. ストリーミングサーバをラックから引き出す(214ページ参照)。
3. 背面のネジ1本を緩める。
4. トップカバーを装置後方へ少しスライドさせた後、持ち上げて本体から取り外す。



取り付け

トップカバーを取り付けるときは、トップカバーの装置前面側にあるタブが本体フレームに少しだけ差し込まれる程度に差し込んだ後、カバーを装置上に置き、装置前面に向けてスライドさせます。
装置の上に置いたときに側面にあるフックが本体フレームにある穴に確実に差し込まれていることを確認してください。
スライドさせた後は、ネジで確実に固定します。



オプションの増設

DIMM

DIMM(Dual Inline Memory Module)は、マザーボード上のDIMMソケットに取り付けます。マザーボード上にはDIMMを取り付けるソケットが6個あります。



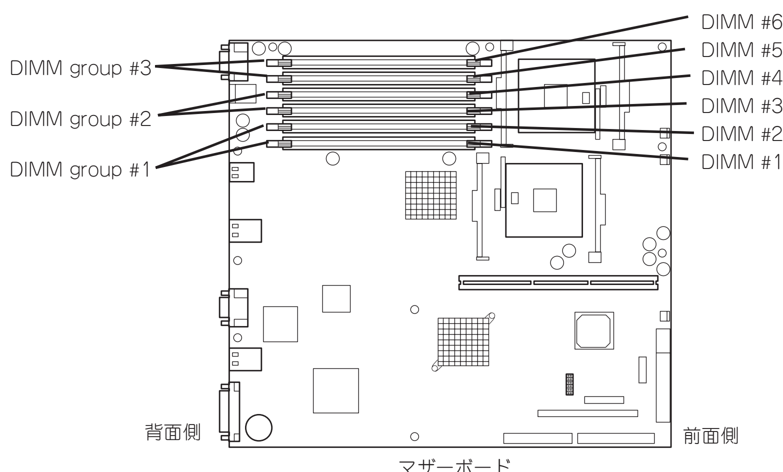
出荷時には、DIMM #1と2に256MB(合計512MB)のDIMMを搭載しています。



- DIMMは大変静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、ボードの端子部分や部品を素手で触ったり、ボードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は206ページで詳しく説明しています。
- 弊社で指定していないDIMMを使用しないでください。サードパーティのDIMMなどを取り付けると、DIMMだけでなくサーバ本体が故障するおそれがあります。また、これらの製品が原因となった故障や破損についての修理は保証期間中でも有料となります。
- メモリは4GB以上を搭載してもOSで認識されません。

DIMMの増設順序

DIMMは、DIMM番号の小さい順に2枚単位で増設します。





インタリーブ装置であるため、BANK単位[*1]に2枚のDIMMを増設してください。1つのBANK内に異なる仕様[*2]のDIMMを実装すると正常に動作しません。

*1 BANK単位とはイラストで示す#1と#2(DIMM group#1)、#3と#4(DIMM group#2)、#5と#6(DIMM group#3)でそれぞれ1単位です(記号はマザーボード上にも印刷されています)。

*2 DIMMの仕様は、DIMMに貼ってあるラベルに下記の内容で表示されています。

(例) 100MHz・Bufferred・256MB・ロウアドレス12ビット・カラムアドレス10ビット・Single sideの場合

100 / B / 256 / R12 C10 S

- 100: 周波数
- B: Bufferred
- 256: 容量
- R12: ロウアドレス12ビット
- C10: カラムアドレス10ビット
- S: Single side

取り付け

次の手順に従ってDIMMを取り付けます。



本装置では、Low-profile(ロープロファイル: DIMMボードの高さが30mm(1.2インチ)以下)タイプのDIMMのみをサポートしています。それ以外(それ以上高い)DIMMはサポートしていません。

1. 207ページを参照して準備をする。
2. サーバをラックから引き出す(214ページ参照)。
3. トップカバーを取り外す(215ページ参照)。
4. DIMMを取り付けるソケットに取り付けられているDIMMカバーを取り外す。

   ソケット両側のレバーを広げると、カバーがソケットから外れます。

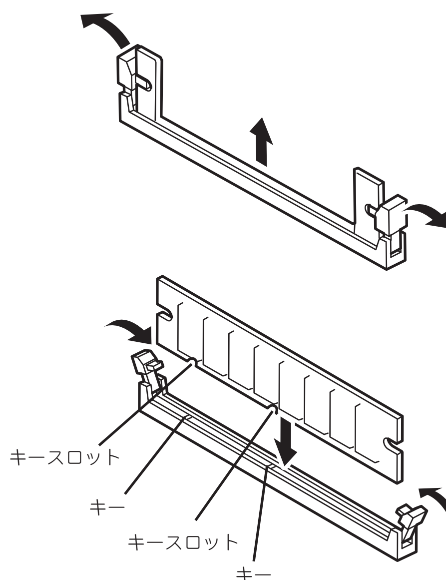
   取り外したDIMMカバーは、大切に保管しておいてください。

5. DIMMをソケットにまっすぐ押し込む。

   DIMMの向きに注意してください。DIMMの端子側には誤挿入を防止するための切り欠きがあります。

   DIMMがDIMMソケットに差し込まれるとレバーが自動的に閉じます。レバーをさらに内側に押して完全に閉じてください。



6. 手順1～3で取り外した部品を取り付ける。
7. POSTの画面でエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

   POSTのエラーメッセージの詳細については170ページを参照してください。

8. SETUPを起動して「Advanced」－「Memory Configuration」の順でメニューを選択し、増設したDIMMのステータス表示が「Normal」になっていることを確認する(132ページ参照)。
9. 「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

   ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは131ページをご覧ください。

10. Windows 2000のページングファイルサイズの設定を推奨値以上(搭載メモリ x 1.5)に設定する。

取り外し

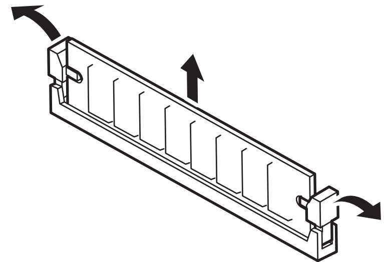
次の手順に従ってDIMMを取り外します。



- 故障したDIMMを取り外す場合は、POSTやESMPROで表示されるエラーメッセージを確認して、取り付けているDIMMソケットを確認してください。
- DIMMは最低2枚1組搭載されていないとストリーミングサーバは動作しません。

1. 207ページを参照して準備をする。
2. サーバをラックから引き出す(214ページ参照)。
3. トップカバーを取り外す(215ページ参照)。
4. 取り外すDIMMのソケットの両側にあるレバーを左右にひろげる。

   ロックが解除されDIMMを取り外せます。



5. DIMMカバーを取り付ける。
6. 手順3で取り外した部品を取り付ける。
7. ストリーミングサーバの電源をONにしてPOSTでエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

   エラーメッセージが表示された場合は、メッセージをメモした後、170ページのエラーメッセージ一覧を参照してください。

8. SETUPを起動して「Advanced」−「Memory Configuration」−「Memory Retest」を「Yes」に設定し、取り外したDIMMのエラー情報をクリアする(132ページ参照)。

   「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

   ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは131ページをご覧ください。

プロセッサ(CPU)

標準装備のCPU(Intel Xeon Processor)に加えて、もう1つCPUを増設し、マルチプロセッサシステムで運用することができます。

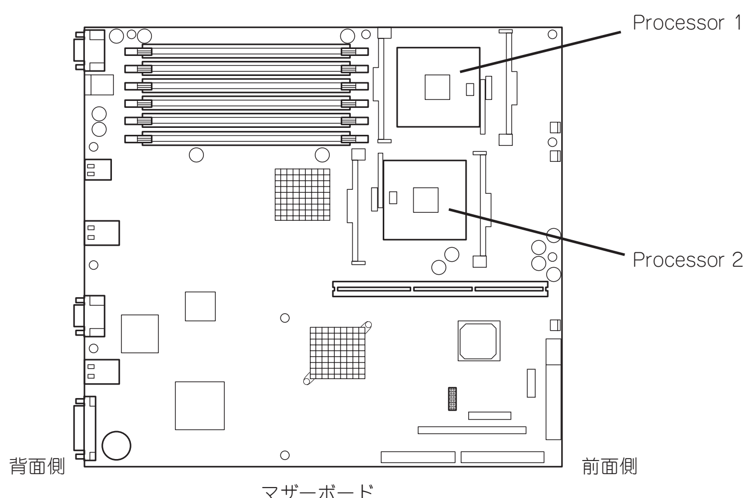


- CPUは大変静電気に弱い電子部品です。装置の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、CPUの端子部分や部品を素手で触ったり、CPUを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は206ページで詳しく説明しています。
- 取り付け後の確認ができるまではシステムへの運用は控えてください。
- 弊社で指定していないCPUを使用しないでください。サードパーティのCPUなどを取り付けると、CPUだけでなくサーバ本体が故障するおそれがあります。また、これらの製品が原因となった故障や破損についての修理は保証期間中でも有料となります。



オプションのCPUの中には異なるレビジョンのものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのCPUを混在して取り付けた場合、Windows 2000ではイベントビューアのシステムログに以下のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。

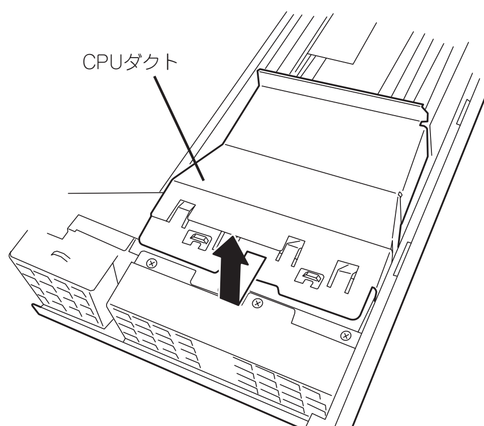




取り付け

次の手順に従ってCPUを取り付けます。取り付け後の確認をするために装置に添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。あらかじめ用意しておいてください。

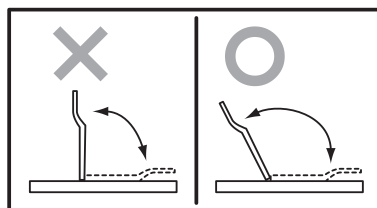
1. 207ページを参照して準備をする。
2. サーバをラックから引き出す(214ページ参照)。
3. トップカバーを取り外す(215ページ参照)。
4. CPUダクトを取り外す。

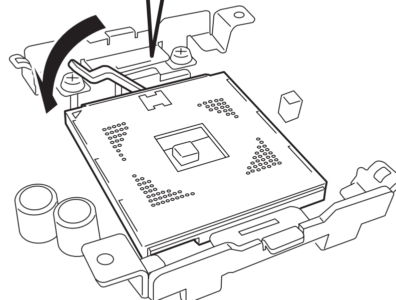


5. ソケット上に貼り付けられているシール状のカバーを取り外す。
6. ソケットにあるレバーを持ち上げる。

重要

レバーは120度以上に開きます。レバーが止まるまで完全に開いてください。中途半端に開いた状態でCPUを取り付けると接触不良によるCPUの破損の原因となります。

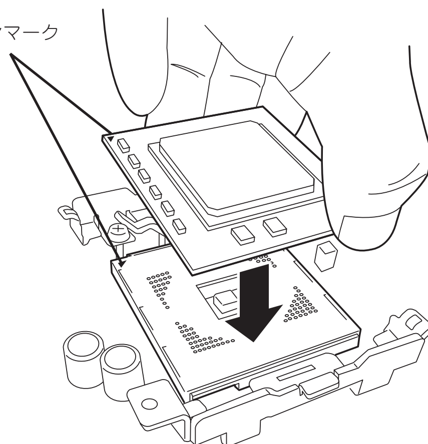




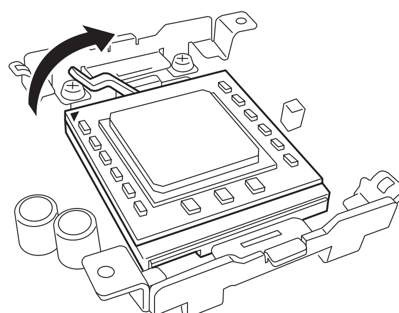
7. CPUをソケットの上にていねいにゆっくりと置く。



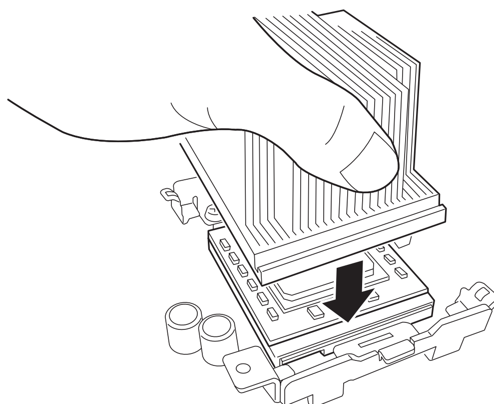
CPUの向きに注意してください。CPUとソケットは誤挿入を防止するためにピンマークで向きを確認することができるようになっています。CPUとソケットにあるピンマークを見て取り付ける向きを確認し、正しく取り付けてください。



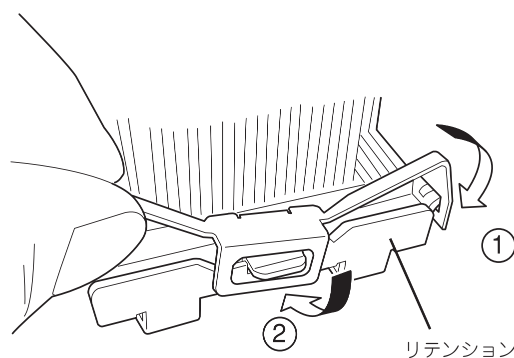
8. CPUを軽くソケットに押しつけてからレバーを倒して固定する。

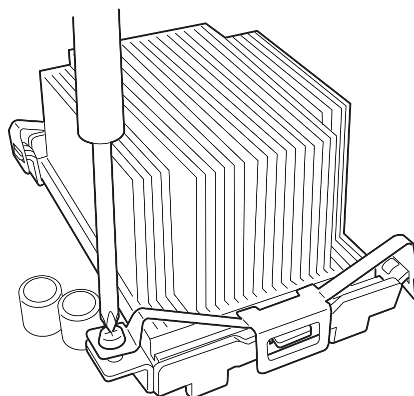


9. ヒートシンクをCPUの上に置く。



10. ヒートシンククリップをリテンションの周りにあるフレームに引っかける。





11. ネジとドライバでヒートシンククリップを仮止めする。

    完全にネジを締めるのはこの後の手順で行います。

12. 同様の手順でヒートシンククリップを使ってヒートシンクの反対側を固定(仮止め)する。

13. ヒートシンクが水平に取り付けられていることを確認する。



- 斜めに傾いているときは、いったんヒートシンクを取り外してから、もう一度取り付け直してください。水平に取り付けられない原因には次のことが考えられます。
  - ヒートシンクが正しい取り付け位置にない。
  - ヒートシンククリップを正しく引っかけていない。
- 固定されたヒートシンクを持って動かさないでください。

14. ヒートシンククリップを固定しているネジを確実に締める。

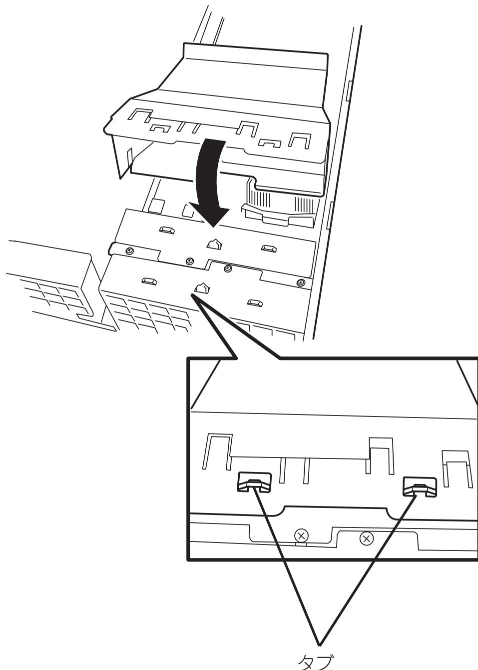


ヒートシンクが動かないよう注意しながら固定してください。

15. 取り外した部品を取り付ける。



CPUダクトを取り付けるときは、ダクトにあるタブが装置のフレームの穴に確実に差し込まれていることを確認してください。CPUダクトはCPUの冷却効果を高めるためのものです。正しく取り付けられていないと、CPUが冷却されず熱による誤動作やCPUの故障の原因となります。



16. ストリーミングサーバの電源をONにして、ストリーミングサーバの起動中に表示されるPOSTの画面でエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

POSTのエラーメッセージの詳細については170ページを参照してください。

17. SETUPユーティリティを起動して「Main」ー「Processor Settings」でBIOSから取り付けたCPUが認識されていることを確認する。

18. 「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは131ページをご覧ください。

19. 1CPU構成のストリーミングサーバにCPUを増設し、2つ以上のCPUで運用する場合は、デバイスマネージャの「コンピュータ」のドライバを「ACPIマルチプロセッサ PC」に変更し、その後、システムのアップデート(53ページ)を行う。

取り外し

取り外しは、取り付けの逆の手順を行ってください。



- **CPUの故障以外で取り外さないでください。**
- **故障したCPUを交換する場合は、CPUに添付のヒートシンクを使用してください。装置に取り付けられていたヒートシンクをそのまま使わないでください。**
- **故障したCPUを交換した場合は、取り付け後にSETUPユーティリティを起動して「Main」ー「Processor Settings」でBIOSから取り付けたCPUが認識されていることを確認後、「Main」メニューの「Processor Settings」ー「Processor Retest」を「Enabled」にして、CPUのエラー情報をクリアしてください。**
- **運用後は熱によってヒートシンクのそこにあるクールシートがCPUに粘着している場合があります。ヒートシンクを取り外す際は、ヒートシンクを底面に押さえ気味に左右に軽く回して、ヒートシンクがCPUから離れたことを確認してから行ってください。CPUに粘着したままヒートシンクを取り外すとCPUやソケットを破損するおそれがあります。**

PCIボード

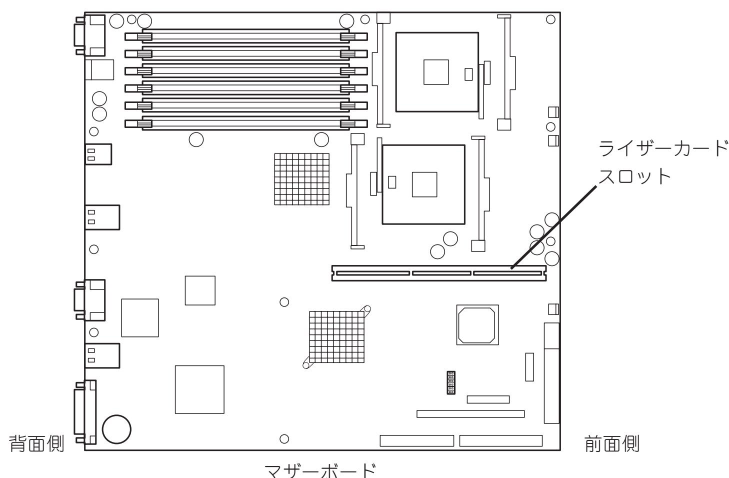
ストリーミングサーバには、PCIボードを取り付けることのできる「ライザーカード」をマザーボード上に搭載しています。ライザーカードには合計で3枚のPCIボードを取り付けることができます。
それぞれのPCIボードスロットへはネットワーク拡張用やファイルデバイス機能拡張用のPCIボードを接続します。



- **PCIボードおよびライザーカードは大変静電気に弱い電子部品です。サーバの金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからPCIボードを取り扱ってください。また、PCIボードおよびライザーカードの端子部分や部品を素手で触ったり、PCIボードおよびライザーカードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は206ページで詳しく説明しています。**
- **取り付けることができるPCIボードの組み合わせには制限事項があります。226ページを参照して取り付けられるボードの組み合わせを確認してください。**



PCIボードによっては、オンボード上の拡張ROMを利用するものもあります。ボードに添付の説明書を参照し、拡張ROMの展開が必要であるかどうかを確認してください。設定は、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を使います。詳しくは、122ページを参照してください。



PCIスロットPCI#3（32-bit、33MHz、5V、PCI。ロングサイズのPCIボードを搭載可能。）

PCIスロットPCI#2（32-bit、33MHz、5V、PCI。ロングサイズのPCIボードも搭載可能。）

PCIスロットPCI#1（32-bit、33MHz、5V、PCI。ショートサイズのPCIボードのみ搭載可能。）

ライザーカード

注意事項

取り付けや取り外しの際には次の点について注意してください。

- PCIスロット#1はショートサイズのPCIボードのみ搭載可能です。ロングサイズのPCIボードは搭載できません。ボードの仕様を確認してから取り付けてください。
- ライザーカードによって接続できるPCIボードのタイプが異なります。ボードの仕様を確認してから取り付けてください。
- 本装置の起動時のPCIバススロットのサーチ順位は次のとおりです。

  PCIスロット#1→PCIスロット#2→PCIスロット#3

  システムディスクを接続しているSCSIコントローラ(ディスクアレイコントローラを含む)は、他のSCSIコントローラよりも先にサーチされるよう接続するスロットを決めてください。サーチ順位が後になるとシステムを起動できなくなります。
- ブートしないLANデバイスのオプションROMはBIOSセットアップユーティリティで「Disabled」に設定してください。
- PCIスロット#1にLANボードを増設した場合、LANポートに接続したケーブルを抜くときは、コネクタのツメが手では押しにくくなっているため、マイナスドライバなどを使用してツメを押して抜いてください。その際に、マイナスドライバなどがLANポートやその他のポートを破損しないよう十分に注意してください。
- ライザーカードの端子部や電子部品のリード線には直接手を触れないよう注意してください。手の油や汚れが付着し、接続不良を起こしたり、リード線の破損による誤動作の原因になります。

サポートオプション

本装置がサポートしているボードと搭載可能なスロットは以下のとおりです。

型名	製品名		スロット			備考
			PCI			
			#1	#2	#3	
			32-bit/33MHz			
		スロットサイズ	Full-height			
		PCI電圧	5V			
		搭載可能なボードサイズ	ショート	ロング/ショート		*3
N8006-05	ビデオキャプチャボード		―	○	○	
N8006-06	ビデオキャプチャボード		―	○	○	
N8006-16	ビデオキャプチャボード		―	○	○	
N8007-01	IEEE1394ボード		○	○	○	
N8103-80	ディスクアレイコントローラ		○	○	○	*1,2
N8103-81	ディスクアレイコントローラ		○	○	○	*1,2
N8103-65	SCSIコントローラ		○	○	○	*1,2：OSブート無し
N8104-86	100BASE-TX 接続ボード(2ch)		○	○	○	*1
N8104-111	100BASE-TX 接続ボード		○	○	○	*1
N8104-84	1000BASE-SX 接続ボード		○	○	○	*1
N8104-112	1000BASE-SX 接続ボード		○	○	○	*1
N8104-103	100BASE-T 接続ボード		○	○	○	*1
N8104-113	1000BASE-T 接続ボード(2ch)		○	○	○	*1

○：搭載可能　―：搭載不可　　2004年2月現在

*1　OSブートを行うカード以外は、BIOSのOption ROM設定を"Disabled"に設定してください。
*2　本装置のPCIバスサーチ順は、PCI#1→PCI#2→PCI#3となっている。システムディスクを接続しているディスクコントローラ（アレイコントローラ、SCSIコントローラ）は、他のディスクコントローラよりも先にサーチされるように接続するスロットを決定すること。サーチ順が後になるとシステムが起動できなくなるので注意してください。
*3　ボードの奥行きサイズはショートサイズが173.1mmまでで、ロングサイズは312mmまでです。

取り付け

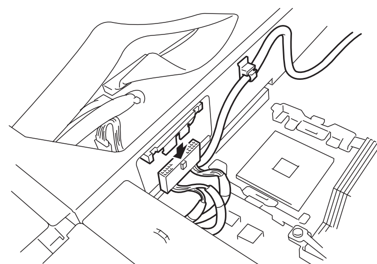
次の手順に従ってライザーカードにPCIボードを取り付けます。



- それぞれのライザーカードがサポートするボードを確認してください。
- PCIボードを取り付けるときは、ボードの接続部の形状とライザーカードにあるコネクタの形状が合っていることを確認してください。

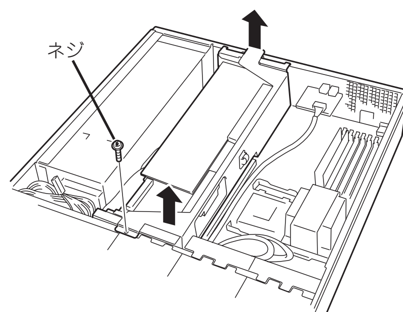
1. 207ページを参照して準備をする。
2. サーバをラックから引き出す（214ページ参照）。
3. トップカバーを取り外す（215ページ参照）。

4. ライザーカードからオーディオケーブルを取り外す。



5. ライザーカードを固定しているネジ1本を取り外す。

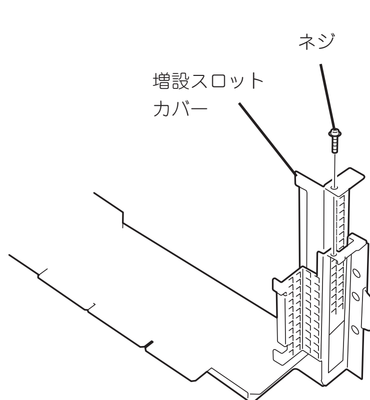
6. ライザーカードをまっすぐ持ち上げて装置から取り外す。

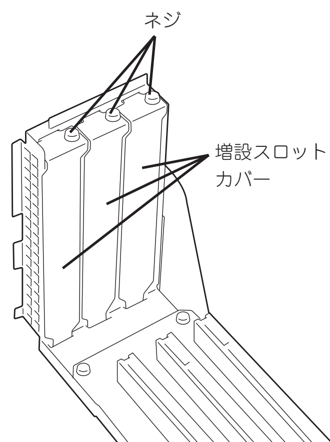


7. ネジ1本を外して増設スロットカバーを取り外す。



取り外した増設スロットカバーは、大切に保管しておいてください。





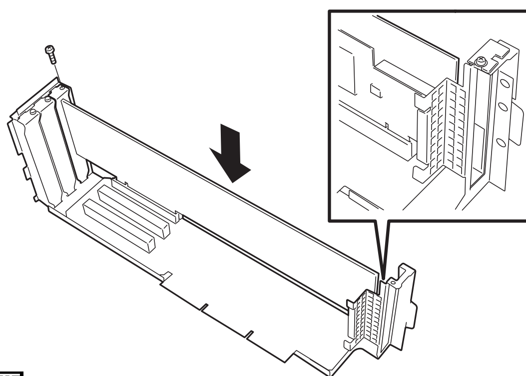
8. スロットに差し込まれているダストカバーを取り外す。



取り外したダストカバーは大切に保管しておいてください。

9. ライザーカードにPCIボードを取り付け、手順6で外したネジで固定する。

ライザーカードのスロット部分とPCIボードの端子部分を合わせて、確実に差し込みます。



重要

- **ライザーカードやPCIボードの端子部分には触れないでください。汚れや油が付いた状態で取り付けると誤動作の原因となります。**
- **うまくボードを取り付けられないときは、ボードをいったん取り外してから取り付け直してください。ボードに過度の力を加えるとPCIボードやライザーカードを破損するおそれがありますので注意してください。**

チェック

- PCIボードブラケットの先端がライザーカードの固定スロットに差し込まれていることを確認してください。
- ロングサイズのPCIボードの場合、PCIボードブラケットと反対側に取り付けられたリテーナがライザーカードのガイドレールに差し込まれていることを確認してください。

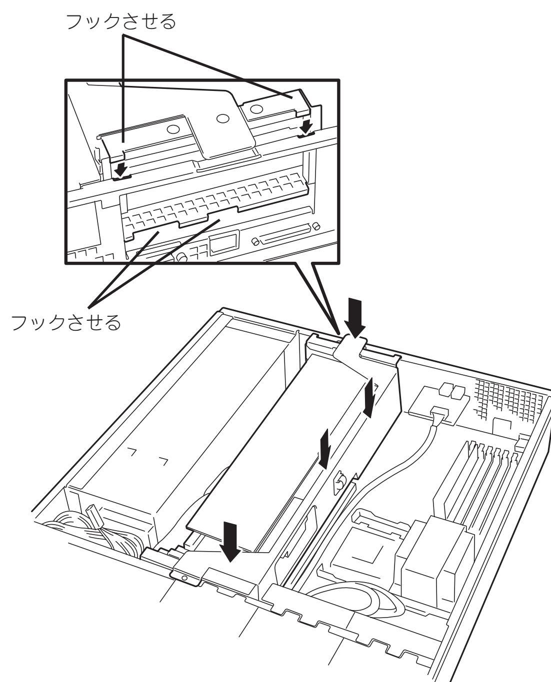
10. ライザーカードをマザーボードのスロットに接続する。

ライザーカードの端子部分とマザーボード上のスロット部分を合わせて、確実に差し込みます。

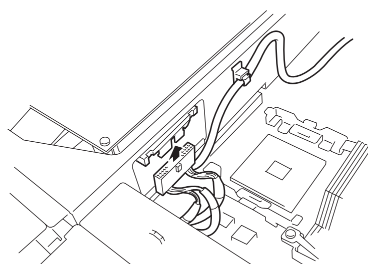
チェック

- 差し込む際にライザーカードのフレーム部にある、筐体と固定するためのツメが筐体背面の穴に正しく勘合していることを確認してください。差し込んだ後、ライザーカードの端子部分が完全に見えなくなるまで指で押して確実に接続させます。
- システム内部のケーブルがライザーカードに挟まれていないことを確認してください。
- オーディオケーブルはライザーカードとFan#2のシャーシの間を通してください。

11. 差し込んだ後、指で押して確実に接続させる。



12. オーディオケーブルをライザーカードに接続する。



13. 取り外した部品を取り付ける。

14. ストリーミングサーバの電源をONにしてPOSTの画面でボードに関するエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

    POSTのエラーメッセージの詳細については170ページを参照してください。

15. BIOSセットアップユーティリティを起動して「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

    ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは131ページをご覧ください。

16. 取り付けたボードに搭載されているBIOSコンフィグレーションユーティリティを起動してボードのセットアップをする。

    ユーティリティの有無や起動方法、操作方法はボードによって異なります。詳しくはボードに添付の説明書を参照してください。

取り外し

ボードの取り外しは、取り付けの逆の手順を行ってください。また、取り外し後にBIOSセットアップユーティリティを起動して「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にしてください（131ページ参照）。

ディスクアレイコントローラボード

「ディスクアレイコントローラボード」は、データの信頼性を向上させるために用意されたPCIボードです。
このボードを取り付けると、ストリーミングサーバ内蔵のハードディスクドライブやオプションのディスク増設ユニットに搭載したハードディスクドライブを「ディスクアレイ構成」で使用することができます。



- **ディスクアレイコントローラボードは大変静電気に弱い電子部品です。サーバの金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからディスクアレイコントローラボードを取り扱ってください。また、ディスクアレイコントローラボードの端子部分や部品を素手で触ったり、ディスクアレイコントローラボードを直接、机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は206ページで詳しく説明しています。**
- **ディスクアレイ構成に変更する場合や、RAIDを変更する場合は、ハードディスクドライブを初期化します。ディスクアレイとして使用するハードディスクドライブに大切なデータがある場合は、バックアップを別のハードディスクドライブにとってからボードの取り付けやディスクアレイの構築を行ってください。**
- **ディスクアレイコントローラを使用して内蔵のハードディスクドライブをディスクアレイ構成にする場合には、ライザーカードをマザーボードに接続する前にSCSIケーブルを接続します。**
- **ディスクアレイを構築するには2台以上のハードディスクドライブが必要です。**
- **ディスクアレイとして使用するハードディスクドライブはパックごとに同じ容量・性能(ディスク回転数など)を持ったものにしてください。**



ディスクアレイコントローラボードを取り付ける場合は、SETUPの「Advanced」メニューの「PCI Configuration」－「PCI Slot xx (xxはPCIスロット番号)」－「Option ROM」のパラメータが「Enabled」になっていることを確認してください。



RAID1またはRAID5、RAID0+1のディスクアレイ構成にすると、ディスクの信頼性が向上するかわりにディスクアレイを構成するハードディスクドライブの総容量に比べ、実際に使用できる容量が小さくなります。

取り付け

ディスクアレイコントローラの取り付けは「PCIボード」を参照してください。



- **本装置の起動時のPCIバススロットのサーチ順位は次のとおりです。**

  PCI #1→PCI #2→PCI #3

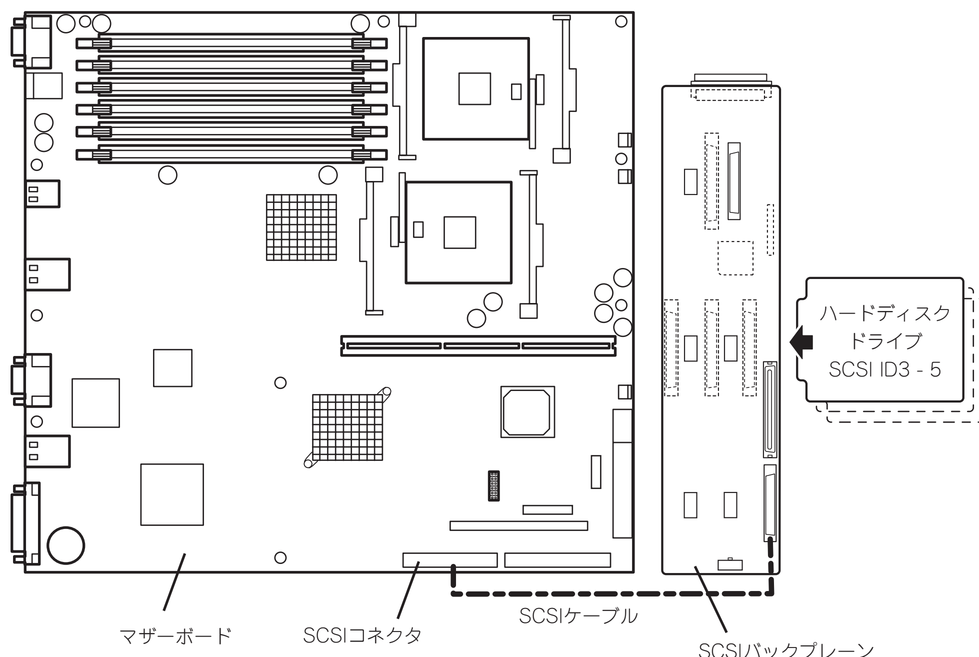
  システムディスクを接続しているSCSIコントローラ(ディスクアレイコントローラを含む)は、他のSCSIコントローラよりも先にサーチされるよう接続するスロットを決めてください。サーチ順位が後になるとシステムを起動できなくなります。
- **ディスクアレイコントローラを接続される場合、BIOSのSETUP Menu のBoot → Hard Disk Drivesにおける優先順位を8番目以内に設定してください。設定が9番目以降となっている場合、ディスクアレイコントローラのコンフィグレーションメニューを起動する事ができません。**

取り外し

ボードの取り外しは、取り付けの逆の手順を行ってください。

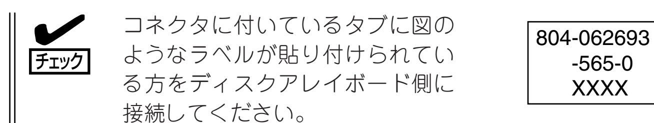
内蔵のハードディスクをディスクアレイ構成にする場合

ディスクアレイコントローラボードを取り付けて、内蔵のハードディスクドライブをディスクアレイ構成にする場合は、マザーボード上のSCSIケーブルの接続を切り替える必要があります。出荷時の内蔵ハードディスクドライブのインタフェースは、マザーボード上のSCSIコネクタに接続されています。

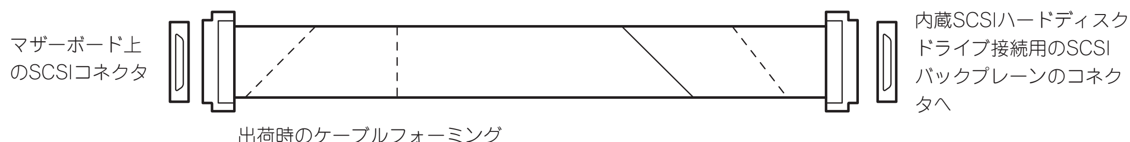


● **SCSIケーブルのフォーミング**

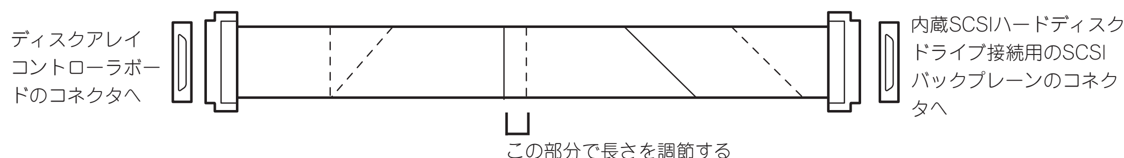
接続に使用するSCSIケーブルは、マザーボードに接続されているSCSIケーブルを使用します。ただし、ケーブルのフォーミングが必要です。次に出荷時の状態とディスクアレイコントローラボードに接続する場合のケーブルのフォーミング図を示します(実線が谷折り、破線が山折りを示しています)。



コネクタに付いているタブに図のようなラベルが貼り付けられている方をディスクアレイボード側に接続してください。



出荷時のケーブルフォーミング



ディスクアレイコントローラボードと接続する時のケーブルフォーミング

● SCSIケーブルの接続

内蔵のハードディスクドライブをディスクアレイ構成にする場合は、マザーボード上のSCSIコネクタからケーブルを外し、ディスクアレイコントローラボードのコネクタに接続してください。



- **ディスクアレイコントローラを使用して内蔵のハードディスクドライブをディスクアレイ構成にする場合には、ライザーカードをマザーボードに接続する前にSCSIケーブルを接続します。**
- **ディスクアレイコントローラボードによっては複数のチャネル(コネクタ)を持っているものもあります。また、コネクタは内部接続用と外付け用が用意されている場合もありますが、ボードの内部接続上、排他的な仕様になっていることがあります。内部と外付けでの接続が異なるコネクタ(チャネル)であることを確認してください。コネクタとチャネルについては、ボードに添付の説明書を参照してください。**

3.5インチデバイスベイ

オプションのデバイス増設機構を使用して、内蔵の3.5インチデバイスを本体にプラグインで接続することができます。
デバイス増設機構への3.5インチデバイスの取り付け方法、SCSIケーブル接続方法および、本体への接続方法については、デバイス増設機構に添付の説明書を参照してください。



3.5インチデバイスベイを使用する場合は、別途オプションのSCSIコントローラが必要となります。(内蔵のハードディスクドライブをディスクアレイ構成し、本体内蔵のSCSIコネクタを3.5インチデバイスベイ用に使用する場合をのぞく)



3.5インチデバイスベイにSCSIデバイスを増設した場合は、必要に応じて156ページの「SCSI BIOS」を参照して適切な値に設定し直してください。詳細についてはデバイスに添付の説明書を参照してください。